

# プレスリリース

## 「学術情報 XML 推進協議会設立」

2012/6/28

6月28日、電子ジャーナルの関係者が参集し、学術情報 XML 推進協議会の設立総会が開催されました。日本の学術情報発信の高度化のため、電子ジャーナルの XML 化を推進することを設立趣旨としています。呼びかけ人は、小宮山恒敏（小宮山印刷工業株式会社）、時実象一（愛知大学）、中西秀彦（中西印刷株式会社）、橋本勝美（日本疫学会）、林和弘（元日本化学会）、宮川謹至（科学技術振興機構）の各氏（50音順）です。会長には時実象一氏が選出されました。

欧米の学術出版においては、XML が標準となっています。XML で出版することにより、

- (1) 論文データが構造化され、電子ジャーナルにおけるプレゼンテーションの高度化が実現する
- (2) リンクやセマンティック・タグの付与、図表など論文要素単位の配信、など加工・付加価値化が図れる
- (3) メタデータの交換、アーカイブなど、標準化による流通促進がおこなわれる

などの利点が生まれます。

これまで、日本での XML の利用は、理系英文誌のごく一部に限られてきました。しかし、J-STAGE が XML を採用することとなり、また旧 NLM DTD が発展した XML 規格 JATS (Journal Article Tag Suite) が日本語も含めた多言語対応をするなど、機は熟しつつあると言えます。推進協議会は、学術情報における XML の推進を図るべきことを訴え、何が XML の普及の障害となっているか、何をもってすれば XML が普及しうるのかを問い、こうした障害をひとつひとつ取り除いていくことを目的としています。

当面の活動としては

- (1) XML 普及のための講演会・セミナーなどの開催 (9/19 に講演会予定)
- (2) 学術情報 XML のための規格・ガイドラインの研究・策定
- (3) 出版社・印刷会社のための技術指導

を計画しています。

推進協議会に関心のある方、参加を希望される方は、上記呼びかけ人にご連絡ください。

学術情報 XML 推進協議会

連絡先: 京都市上京区下立売通小川東入西大路町 146

-----  
J-STAGE における XML 記述例 (著者名)

```
<contrib contrib-type="author">
  <name-alternatives>
    <name name-style="eastern" xml:lang="ja">
      <surname>科学</surname>
      <given-names>太郎</given-names>
    </name>
    <name name-style="western" xml:lang="en">
      <surname>Kagaku</surname>
      <given-names>Taro</given-names>
    </name>
    <name name-style="eastern" xml:lang="ja-Kana">
      <surname>カガク</surname>
      <given-names>タロウ</given-names>
    </name>
  </name-alternatives>
</contrib>
```

[参考文献] 時実 象一, 井津井 豪, 近藤 裕治, 鶴貝 和樹, 三上 修, 野沢 孝一, 堀内 和彦, 大山 敬三, 家入 千晶, 小宮山恒敏, 稲田 隆, 竹中 義朗, 黒見 英利, 亀井 賢二, 楠 健一, 中西 秀彦, 林 和弘, 佐藤 博. NLM DTD から JATS へ 日本語学術論文の XML 編集. 情報管理. 2011, 54(9), 555-567.